

# 畜産試験場だより

## 酪農試験場

あと2ヵ月足らずの10月の岡山国体を控えて、県内整備の一貫事業として場内も日々整備されつつあります。また4月に庶務課、業務課の両課長を迎え、新しい計画も軌道にのり着々と進んでおります。

さて今日は4月に新しく発足いたしました酪農経営改善指導所と最新のニュースを御紹介いたします。

### ◎酪農経営改善指導所

川上郡成羽町に土地約80アールの規模で設置され、将来搾乳牛5頭、育成牛2頭を繁養する予定です。最近特に問題の多い酪農経営のあり方及びその内容を分析して、より有利な経営方式を見出すのが目的で、一つのパイロットファームとして生まれた訳です。未だ牛も入っておりませんが10月には搾乳牛が2頭入る予定で、約30アール程は青刈飼料の種播きも終えております。一方ブルドーザーにより、原野の開墾整備に、原所長も神田技師も共に汗を流している現況です。

酪農経営もだんだんと多頭化した現在、まず問題となる事は、労力の省力化と自給飼料の確保が今後の酪農を左右する事でしょう。このような意味からも、酪農経営改善指導所がこの問題と取組み、酪農家の期待にそえるよう日夜努力いたしております。

### ◎リニヤ、プログラミング研修会

7月13、14、15日の3日間にわたって、岡山大学より目瀬先生をお招きして、県北部の技術者20名程度が熱心に研修を受けました。リニヤプログラミングとは線形計画と呼ばれ、すべての経営計画に利用出来る方法です。農業がいまだ慣習によって計画されていたものも、この方法によって、客観的にどんな経営方式が最も有利であるかと言うことが判る訳です。計算は非常に複雑で、電子計算器まで必要としますが、今後の経営診断に電子計算器の登場もあまり遠くない事でしょう。これまでに県内で2ないし3回、これの研修が行なわれたそうですが、何れも不発に終わっている由、活用面において今回の研修

に期待される所が大きいとのことでありました。

### ◎種雄牛について

年々増加する雌牛に対応して、本年度も5月には岩手県小岩井農場より、「第七・サー・ロメオ・パイオニヤ・スシー号」(36、7、7日生) 静岡県より「ヘンドリック・サー・バンドマスター・コバー号」(36、2、8日生) 7月には広島県チヤス牧場より「ジェネラル・サーロータル・マラソン号」(35、9、9日生)が入り、ホルスタイン種12頭、ジャージー種3頭が繁養されております。

### ◎ランドレースについて

昨年10月に輸入されて当场へ入った15頭の種豚も、4月からだんだんと分娩して、現在までに80頭の仔豚が生まれ、元気に成長しております。場内に養豚試験場が新設されることになり、7月初めより9月完成予定で工事も進んでおります。あと3ヵ月もすれば、新しい豚舎へと移り、本格的な試験研究も行なわれ、養豚家の方々に大いに活用されることと思えます。

またランドレースの払下も7月14日第1回目が行なわれ、美作地区及び勝山地区の指定種豚場に、種畜12頭、廃用8頭が払下げられました。この第1回払下種豚が、将来ランドレース増殖の使命を、立派に達成してくれるよう切に祈る次第です。